



たのしい わたしの学校

校長 安達 修久

真冬の寒さと、冬らしからぬ暖かさもあった師走を経て、年が改まり令和6年、2024年となりました。本年もどうぞよろしく願いいたします。

去る12月9日(土)、本校150周年記念式典を無事と行うことができました。保護者、地域の皆様におかれましては、多大なるご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございました。

児童の記念式典で、お祝いのダルマに目を入れるセレモニーを行いました。ダルマはクラスごとにデザインされて実に個性豊かで、代表の子たちによってその場で目を描き入れるという手作り感にあふれ、和やかな温かい雰囲気でした。



続いて行った児童の記念集会、「釜小クイズ」では、学校や地域の昔の様子についての問題に、記念事業実行委員さんが壇上で答えの解説を加えてくださいました。昔の学校やまちの様子、子どもたちの遊ぶ姿が目には浮かぶようでした。「学校でアヒルを飼っていた」「インコが100羽ぐらいいた」という話に「えー！」と子どもたちの歓声が上がると、やはり温かい雰囲気に包まれました。またサプライズとして「宿御雛子保存会」の皆様によるお雛子と舞踊を披露していただきました。子どもたちは歓声とともに獅子舞や福の神を迎えていました。ほほえましくにぎやかな中に、150周年記念運動会のとさのような、全校の一体感をまた感じる事ができました。

児童の下校後、お客様をご招待して行った記念式典も、終始和やかな雰囲気で行われました。卒業生である記念事業実行委員の方から、「歴史をふりかえって」という演題で、地域や学校の昔の様子を思い出とともに語っていただきました。四季折々たくさんの自然の中で友達と遊び、また当時の担任の先生に叱られながらも学校生活を楽しく送っていただいたこと、仲間との結びつきの強さなどを話していただきました。釜利谷小学校にかかわるみなさまの地域・郷土愛、学校愛が再確認される式となり、終了後にはお客様方から口々に「素晴らしい式典でした」「おめでとうございます」という言葉をいただきました。

記念の行事を行うことにより、子どもたち同士、教職員、地域・保護者の皆様との連帯感が、よりいっそう深まり強まったように感じられます。学校の教育活動が引き続き行われていく中、子どもたちの笑顔やかけてくる声の温かさ、その中に感じる充実感と満足感。ボランティアの方々も同じように活動が続けてくださる中、いつもどおりの笑顔とご挨拶ながら、やはりいっそうの温かさを感じます。まさに150周年スローガン「かたいきずなで 150(いこう)釜小 これからも」のとおり、このたびの記念行事が大成功であったことを物語っていると思います。

実行委員の方々から語られた釜利谷小学校の思い出や、保存会の方々によるお雛子は、聞いているみんなまで共有することで会場全体の楽しさとなって広がっていました。行事に限らず、学校生活には楽しいことがたくさんあります。クラスや学年で起こったこと、何気ない日々の中の小さな出来事の中にも、一人の楽しいがみんなの楽しいとなって、何倍にも何十倍にも大きく広がり心に残る場面があるのです。そんな楽しいが積み重なって、**学校教育目標「たのしい わたしの学校」**になっていくと思います。そして実行委員の方々のように、子どもたちがいつか釜利谷小学校の楽しい思い出を、卒業生として懐かしむ日がくるように願い、これからも活動を進めていきます。